



大妻福祉 NEWS 2018 Vol.17

2018 年 7 月号

2018 新しい人間福祉学科 7つの履修モデル紹介!

大妻女子大学 人間関係学部 人間福祉学科

ソーシャルワークモデル紹介!

〔人間福祉学科 教授 嶋貫真人〕

このモデルは、社会福祉士国家試験受験資格の取得を希望する方のための履修プランです。したがって、このモデルに沿って学習した方については、卒業後は高齢者・障害者等の福祉施設をはじめとして、医療機関、行政機関（福祉事務所・児童相談所等）、社会福祉協議会、小中学校（スクールソーシャルワーカー）、刑務所等、様々な分野でソーシャルワーカーとして活躍していくことが期待されています。また、このモデルと併せて、メンタルヘルス支援モデルやジョブコーチモデル等の他モデルの科目を並行履修していくことで、取得する国家資格の種類や学びの幅をさらに広げていくことも可能です。なお、最近では福祉・医療機器のメーカーや住宅改修を請け負う建設会社、さらには福祉系の研究・調査機関等においても社会福祉士資格所持者へのニーズが増大しているため、本モデルで学

習した方の進路は今後一般企業にも広がっていくものと予想されます。

2018 年度 オープンキャンパス情報

* 多摩キャンパス

オープンキャンパス開催日（多摩）

7月29日(日) 10:00～15:00

8月11日(土) 10:00～15:00

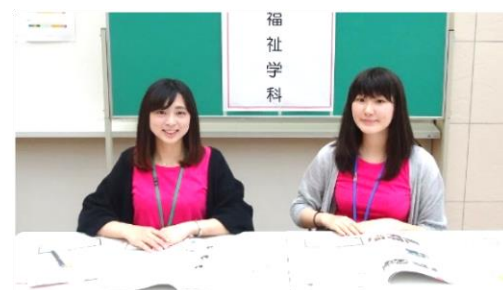
8月25日(土) 10:00～15:00

10月21日(日)⇒大妻多摩祭と同日
(教員・学生の個別相談のみ)

2018 年 4 月から、人間福祉学科の「人間福祉学専攻」と「介護福祉学専攻」を統合し、1 学科制になり、より学びやすく、なおかつ進路を選びやすくなりました。定員は、これまでと同じ、100 名です。

福祉の国家資格である社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士(30 名養成)については、引き続き必要な科目を履修することで国家試験受験資格を取得できます。

上記日程以外でも、7月15日(日)、8月5日(日)、12月1日(土)に千代田キャンパスで個別相談を行います。どうぞお越しください。



【在校生による個別相談もあります】

多摩キャンパスでは、今年度もオープンキャンパスを 5 回実施します。学科説明会、体験授業、教員による個別相談、先輩学生の相談コーナー、キャンパスツアー等、定番のメニューに加えて、本学教員による特別講演を実施します。その他、予備校講師による小論文・面接対策講座（予定）も実施致します。高校生の皆さんだけでなく、保護者の皆様や高校の先生方にも役立てて頂けるような内容になっています。多くの先輩学生も参加をします。ぜひ実際のキャンパスで「見て」「聴いて」「体感して」ください。



障害者雇用企業との連携

〔人間福祉学科 教授 小川浩〕

平成30年4月29日（日）、大妻女子大学多摩キャンパスにおいて約800人が参加して「働く障害者のためのTボール大会」が開催されました。



このイベントは、多摩障害者雇用企業連絡会による実行委員会と大妻女子大学が連携し、働く障害のある人を対象に、誰もが参加できる野球をベースにしたスポーツ「Tボール大会」を開催したものです。

本年度は19社25チームが参加し、各チームに大妻女子大学の学生ボランティアが加わり大会を盛り上げました。障害者を雇用する企業にとっては、Tボール大会の会場確保に加えて、本学の学生が各チームに入り障害のある従業員と交流することで大会が盛り上がるというメリットがあります。また学生にとっては、障害のある人たちとスポーツを楽しみ、チームに溶け込んで応援することを通して、社会福祉士実習等とは異なる自然体での交流機会が得られました。

お問い合わせ先
(下記の入試担当教員まで)

大妻女子大学 人間関係学部 人間福祉学科

〒206-8540 東京都多摩市唐木田 2-7-1

電話：042(372)9198

FAX：042(372)9202

ogyu@otsuma.ac.jp (尾久裕紀)

shu_inoue1@otsuma.ac.jp (井上修一)

「未来の姿：ダブル資格」



〔三宅菜月さん 平成30年3月卒業〕
勤務先：特別養護老人ホーム芙蓉園
出身高校：東京都立町田総合高校

私は、介護福祉士と社会福祉士の2つの資格を持ち、特別養護老人ホームで介護職として働いています。そこでは、高齢者の食事介助、排泄介助、入浴介助、移乗介助などを主に行っています。

就職して最初の1か月は主に利用者の方を知るという目的のもと、コミュニケーションの時間が主でした。そこで、大学の実習で学んだ「傾聴」の技術や、いろいろな実習先に行ったことによる幅広い話題によって利用者の方との話もしやすく、1か月間で多くのことを知ることができました。

資格を取るにあたって勉強した「人体」や「病気」についての知識は、実際に就職して利用者の介助をするに当たって重要となる知識です。記録には病名は書いてありますが、説明はありません。そこで、病気やそれに伴って起こる人体の異変等についてあらかじめ知っていることは、記録を読み、利用者を知り、ケアをする上でとても役に立っています。

また、実際の介助以外で、年金、介護保険制度、医療保険制度など福祉に関する知識もいきています。特別養護老人ホームでは様々な家庭事情の利用者がいます。制度についての知識を持っていることによって、その人の今までの生活歴や現在どの方法で入所に至ったのか、理解しやすくなっています。

大学で学んだ知識、基礎技術は就職した後、様々な場面でいかされています。4年間という時間をかけての勉強だったことで、短期間で勉強するよりも身についたと感じるので大妻女子大学で福祉を学んでよかったと思います。

「教えて先輩：医療福祉」



人間福祉学専攻 3年 石田薫子さん

〔東京純心女子高等学校 出身〕

小学生の時、ハンセン病の方の話を聞く機会がありました。小学生にとって、差別、偏見の話は衝撃的でしたが、現在にも通ずるものを感じ、将来は人に寄り添う仕事をしたいと思いました。私自身も中学、高校生活で、両親、友達、先生に支えられ、身を持って人に寄り添う力の大きさを感じました。

高校3年生の時、偶然「ガン哲学」の本に出会い、医療者ではなくても心に寄り添う事で患者さん、ご家族をサポートできることを知りました。それこそがやりたい仕事であり、医療ソーシャルワーカーという職種を知り、様々な視点から福祉を学べる大妻女子大学に進学しました。現在、社会福祉士と精神保健福祉士の合格を目指し、専門的な授業、実習、他ではできない貴重な体験を通して福祉を学び、同じ目標をもつ友達に刺激をうけ、意見を交換しあい充実した日々を過ごしています。福祉は学べば学ぶほど奥が深く、日々正解のない問題に頭を悩まされますが、人生において大切なものを得ることができているように感じています。これからも私の中のテーマである人に寄り添うについて向き合っていきたいと思います。

